

常任委員会行政調査報告

総務委員会

○小島倫明、○小沢国大、竹内里美、玉井宰、船橋厚、加藤晶子、伊藤宏行

○委員長 ○副委員長

5月12日(火) 千葉県柏市

防犯カメラについて

全国で一番犯罪件数が多いと言われている柏市の街頭防犯カメラの設置について学んで参りました。平成15年をピークに平成16年から街頭防犯カメラを設置したところ毎年目に見える形で、犯罪発生件数が減少した。犯罪件数が減少する事や、犯罪解決の手掛かりになったりと、非常に有効的である反面、インシタルコストやランニングコストが増え続ける事や、設置要望が年々増えてきていること、また設置において、周辺の方への理解に非常に時間がかかり、導入から運用開始まで約半年かかる事もお聞きしました。安心安全は生活の基盤ともなりま

すので、視察を行った事を参考に小牧市の安心安全にも役立てたいと感じました。

5月13日(水) 千葉県野田市

公契約条例について

野田市においては、自治体で初めて公契約条例を制定した自治体であり、地方公共団体の入札が一般競争入札の拡大や総合評価方式の採用などの改革が進められてきたことにより、低入札価格の問題によって下請の事業者や業務に従事する労働者にしわ寄せがされ、労働者の賃金低下を招く状況となっていることを打開すべく、公契約の社会的な価値の向上を図るため、この条例が制定されたそうです。制定に至っては、市長がもとも国の建設の方面で動いていた方でトップダウンで率先して行い、議会に提出し制定に至ったそうです。メリット・デメリットをお尋ねしたところ、デメリットはないとの答弁でした。

文教委員会

○小川真由美、○稲垣守、熊澤一敏、松田喜久男、鈴木英治、谷田貝将典、安江美代子

5月13日(水) 宮城県大崎市

空き店舗を活用した一時預かりによる中心市街地活性化について

大崎市では、古川駅前の空き店舗を利用して大崎市子育てわくわくランドを平成19年12月に開設しました。この施設は、子育てを行う市民に交流の場を提供するとともに各種事業を行いながら子育てを総合的に支援し、もっと安心して子育てができるまちづくりの実現を図ることを目的としています。一時預かりを行う子育てサポート保育事業では生後6ヶ月から就学前の乳幼児を年末年始を除く毎日預かってくれます。

子育てを手伝ってもらいたい方と子育てをお手伝いできる方が手を取り合うこと、助け合うことをお手伝いする事業です。大変子育てに熱心な大崎市で、小牧市としても非常に参考になりました。

5月14日(木) 宮城県仙台市

仙台城見聞館(ガイダンス施設)について

仙台城見聞館(ガイダンス施設)は、仙台城の築城と城下町の歴史や城内の遺構及び発掘調査の成果、石垣修復工事等を、パネルや各種模型、テレビ、映像等でわかりやすく展示してあります。

仙台城は、日本の歴史上重要な城郭遺跡であると評価され、平成15年には、国の史跡に指定されました。平成16年には、8か年にわたった本丸跡の石垣修復工事とそれに伴う発掘調査も完了しました。仙台城跡の保存、修復された石垣や文化財の展示による活用など整備目標を定めた整備基本計画を作成されています。

現在小牧市においては、平成30年4月からの(仮称)史跡センターの供用開始に向けて基本設計中であります。より多くの方に来ていただける(仮称)史跡センターになるよう今回の行政調査を参考にしていきたいと思います。



福祉厚生委員会

(◎)稲垣 裕子、○舟橋 秀和、佐藤 大輔、川島 公子、成田 隆三、小林 一
※水谷 勉委員は体調不良により欠席しました。

5月14日(木) 東京都葛飾区

健康づくり推進員事業について

葛飾区は、「健康長寿日本」を目指し、基本計画に健康とともに支えあい、いきいき暮らせる地域社会づくりを主要課題に掲げています。取り組みの一つとして「健康づくり」があり、課題に応じた健康講座を地域ごとに開催することで参加者の健康意識の向上に努めていました。それを土台とする公募型の「健康づくり推進員」がしっかりと地域に根付き活躍をしていました。

また、身近な飲食店で栄養バランスの良い食事をとれるようにと「かつしかの元気食堂」として食のブランド化を行い、野菜中心のメニューや減塩メニューが選べ、また、地場産の野菜も積極的に使



5月15日(金) 東京都日野市

介護サポーター制度について

日野市における介護サポーター制度は、平成22年にスタートし、登録式のボランティア推進制度であります。この事業の目的はボランティア活動を通じて積極的な社会参加、地域貢献を行うとともに介護予防の理解を深め、高齢者が元気に暮らすことのできる社会をつくることとあります。事業の主体は社会福祉協議会で、活動期間は一年間で年度更新を行っています。初回の場合、社協が面接や施設とのマッチングを行い、デイサービスセンターなどがボランティアを受け入れており、1時間程度のボランティア活動で1つスタンプが貯まり、スタンプは最大で60個です。

年度末には貯めたスタンプに応じて交付金として現金へと引き換えも可能です。多くの方はそのまま寄附をされている現状を伺い、将来の共助の姿を学びました。



産業建設委員会

(◎)河内 伸一、○長田 淳、丹羽 浩、澤田 勝己、橋本 哲也、伊藤 宏行、伊藤 茂

5月19日(火) 鳥取県鳥取市

鳥取市観光産業育成支援制度について

鳥取市観光産業育成支援事業は、行政と商工会議所、商工会などが連携を取り、観光関連事業者による魅力ある観光商品開発やおもてなしの向上、効果的な誘客宣伝活動を行っています。その結果、鳥取ブランドの展開による鳥取力の向上を図り、観光客を呼び込むなど、観光産業が確立しているとのことでした。しかしながら、鳥取全体の観光客の9割が鳥取砂丘に集中していることから今後は砂丘の他にいろんな名所、観光地などをしっかりPRし、観光客の増加につなげていきたいとのことでした。取り組みを通じ、観光による消費と経済効果とをより高めたいと、滞り型観光都市として発展していきたいとのことでした。



5月20日(水) 鳥根県出雲市

出雲市観光基本計画と観光事業について

出雲市の現況は、「出雲大社の平成の大遷宮」や神門通りの整備などもあり、遷宮前に比較して2・5倍の観光客で盛り上がりつつあります。一方、平成21年策定の観光基本計画は、2市4町による合併が実施され、見直しが必要となっています。

今後は観光交流の目標を交流人口1,000万人と定め、住んでいる人にも訪れた人にも喜ばれ愛される観光地を目指し、出雲大社という大きな観光資源だけでなく、ブランドイメージの確立や歴史体験型のプログラム、の充実、米子市・境港市等との連携をも視野に入れた観光基本計画の策定を課題としています。また、通過型観光から滞在型観光への転換が経済効果を高めるうえで必要と考えるもの、の課題は多く、全体的に観光振興というテーマは非常に難しいものであると感じられました。

